

## 2023年度 東京大空襲犠牲者追悼集会 体験者の話

(浅草で被災し生存 当時12歳)

時間 2023年3月10日13時開会

場所 隅田公園言問橋際 東京大空襲犠牲者追悼碑前

語り部 鷺山 洋子(わしやま ようこ) 1933年1月10日生まれ

東京大空襲(1945年3月10日)当時12歳 国民学校6年生 集団疎開から3月3日帰郷

浅草・隅田公園で家族と生存 浅草小学校で避難生活 2023年3月現在90歳

私は、東京大空襲の当時12歳で、浅草雷門近くの家で空襲を受け、隅田公園で生き残ることができました。戦争が始まったのは、昭和16年、1941年。国民学校2年生のときでした。大東亜戦争がはじまったと喜ぶ、提灯行列や、飾られた路面電車を覚えています。

6年生になった1944年、サイパン島が陥落して、戦況が悪くなり、児童を空襲の被害から守るために、縁故疎開、集団疎開が始まりました。私は、茨城県のお寺に、6年生と4年生の40人で集団疎開をしました。

親元をはなれての生活は、つらく、ひもじく、シラミになやまされました。

その冬のある日、母が私に面会するために、幼い弟を連れて、雪の降る山門をくぐり、歩いてくる姿がうれしかったことをおぼえています。母がもってきてくれたのは、大豆、黒ごまを煎ったものをお茶の缶に入れたものでした。

私達6年生は、東京大空襲の一週間前の、1945年3月3日に、中学校・女学校に進むために、東京に帰ってきました。

父は、軍隊に招集され、内地勤務をしていたので、家にいませんでした。

3月10日の夜中に、私は、母に「起きなさい！起きなさい！」と、たたき起こされました。

枕元にあった防空頭巾をかぶり、赤十字マークのついたバッグを肩にかけ、外に出て、空を見上げると、大きな飛行機が、屋根に乗りからんばかりに飛んでいます。

上野方面も、浅草の観音様方面も、空が赤く染まっていました。

それでは、隅田公園に行こうと、乾物屋の我が家でしたので、リヤカーに、卵の入った木箱、砂糖の樽、布団などをのせて、母と14歳の兄、12歳の私、6歳、4歳の弟の5人は、リヤカーにつかまり、雷門通りに出ました。

しかし、火災による強風で、リヤカーを押せども、押せども進みません。

どうやら松屋前を通り、隅田公園に入ると、すぐに防空壕がありました。男の人が顔を出し、「だめだ、だめだ！いっぱいだ！」と言って、防空壕の蓋(ふた)を閉められてしまいました。

後に聞いたことですが、防空壕の中の人たちは、蒸し焼きになって死んだそうです。ただ、私は見たわけではないので、事実はわかりません。

私達がいたのは、今は東京都観光汽船「浅草(あさくさ)」の発着所があるあたりでした。

吾妻橋は、落ちそうなくらい人であふれていました。

「デパート松屋」からは、窓という窓から火がふき出ていました。

空を見上げると、何か大きな物体が、火災の風に巻き上げられて、ガランガランと音を立てて飛んでいます。私達がいた川べりは、火の粉がまじった熱い風に包まれました。

母は、身につけた紐をほどいて、バケツに結わえつけ、ドボンと川に落(おと)として水を汲み上げ、うずくまっていた私達の防空頭巾の上から水をかけました。

どれほど時間がたったのやら。飛行機の爆音も、聞こえなくなりました。

焼け野原の家に戻ると、コンクリートの地下室だけがあり、その地下室の水道管の蛇口から、水滴がぼたりぼたりと、涙のように落ちていたのが忘れられません。

私達は、焼け残ったという、浅草小学校に向かいました。

途中、電信柱が焼け焦げたような焼死体がいくつも横たわっています。

母は私の防空頭巾の両端をおさえて、私が見ないようにしてくれました。

浅草小学校で一週間ほど避難生活をしていたようです。しかし、毛布で寝起きし、いただいたおにぎりがおいしかったこと、他の、どのような生活をしていたのかは、思い出せませんでした。

そこで、先週、浅草小学校の校長先生にお会いして、当時の資料を見せていただくことができました。

学校の記録によれば、浅草小学校は、学校職員と避難していた人が消火活動に奮闘して校舎を守り抜きました。

空襲が去った3月10日の朝8時、1万人以上の避難民がいて、その後、他の学校や施設に分散させたので、10日「収容中の避難民」は2千4百人と記録にありました。その中に私達もいたはずですが。

おいしかったおにぎりは、竹橋連隊からトラック二台で2万5千個も運ばれたものだとわかりました。

縁故疎開が呼びかけられ、縁故がない人は近郊他県への疎開が進められ、一週間後の避難民は数十名になっていたと、記録にあります。

その中で、私達はお店のお客さんだった浦和の知人宅にお世話になることになり、浅草を離れました。

東京大空襲を生き残れた私は、今年、90歳となりました。

今、ウクライナでは、同じように民間人への攻撃が行われています。

多くの子どもたちが、家族や家を失い、心に深い傷を負っています。

一夜にして、多くの命が失われた、東京大空襲で起きたことと、私達が体験したことを伝えておかなければならないと思い、お話をさせていただきました。

このような残酷な戦争が起きない、平和な世界になることを願っております。

令和5年 3月 10日 鷺山 洋子

このお話が末永く、平和教育の資料の一助となることができれば幸いです。

原文・小学生用ふりがなつきテキスト・体験者の話動画などは、鷺山洋子の長男、鷺山龍太郎が編集支援し、web上に公開し保存しております。

HP「未来防災 NET」(防災教育サイト) mirai-bousai.net

連絡フォームもあります。

